

大鰐町地域公共交通会議

平成21年3月23日設置

平成22年3月23日連携計画策定



概要

地域住民の自家用車への依存は高いものの、将来高齢となって運転できなくなった時の不安が、バス存続の大きな理由となっている。将来における移動手段の担保又、医療・教育・買物等の利便性向上を図るために、地域の実情に合った移動手段を構築することが必要である。「町民アンケート」、ワークショップ等における具体的なアイデアとして、町内循環バス、乗合タクシー、デマンドタクシーなどが多く寄せられている。新たな公共交通の構築のキーワードを「住民目線で考える公共交通システム」として、従来の縦割りの発想を改め、町行政・交通事業者・ボランティアなどが、お互いの長所を生かしながら、役割分担し、地域全体が連携して取組みさらに、町財政面でも持続可能な公共交通システムの構築を目指す。

1. 路線バスとタクシーの併用運行

バス事業者、タクシー事業者が連携しそれぞれの役割を担う。通学者の利便性を高めるため、朝の1便を、小中学校の登校時間、JR及び私鉄の接続に合わせ運行。その他の時間帯は、運行時間、停留場固定の予約があった場合のみ運行するデマンドタクシーを1日6往復運行予定。10月から1年間実証運行し、効果検証のうえ本格運行を目指す。

1-1. 拠点施設等の整備

中心市街地のJR大鰐温泉駅に近接する、大鰐町地域交流センター「鰐come」を情報発信の拠点として位置づけ、公共交通案内板を設置し公共交通の取組について、地域住民に周知を図る。又、館内を無料休憩場として利用するなど、利便性の向上を図る。

1-2. 利用促進・啓発事業の実施

公共交通機関ごとに、ばらばらであった時刻表を一体化し、地域住民にわかりやすい乗継ぎマップを作成する。町内の小中学生を対象とし、バス・鉄道等をテーマにCO2削減など身近な問題として理解を深めてもらうことを目的とした環境教育、講演会等を実施する。

